

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月22日現在

機関番号：32604

研究種目：若手研究（B）

研究期間：平成21年度～平成24年度

課題番号：21720088

研究課題名（和文） 占領期日本におけるGHQ日本民主化政策と翻訳許可アメリカ図書

研究課題名（英文） The Japanese Democratization Program and the Translation Program of American Books by GHQ in Postwar Japan

研究代表者

鈴木 紀子（SUZUKI NORIKO）

大妻女子大学・文学部英文学科・助教

研究者番号：40522123

研究成果の概要（和文）：

GHQが占領下日本に読書奨励を図った翻訳図書は、戦後冷戦期米国の理想的自己像を投影していた。特に開拓時代の西部がその理想的国家像を表す要素として重要視された。

日本人の図書解釈は、米国を受動的に理想化する一方、他方では米国を戦後日本と重ね合わせる二重解釈が見られた。

この日米の図書解釈は、図書が両国の戦後の主体形成の闘争の場となった事を示す。本研究により、翻訳図書が占領及び冷戦期の政治的役割と機能を果たした事が強く再確認された。

研究成果の概要（英文）：

The American books selected by GHQ for postwar occupied Japan reflected the US's ideal self-image that the country wished to construct as the Cold War strategy. The western frontier image was particularly utilized for the construction of the ideal national image.

The Japanese readers accepted the translated American books with admiration, while interpreting them for their own benefits.

The different ways of interpretation of the books show that the books worked as a battle field for the two nations' construction of their national self and the fact that the books played significant political roles and functions in the postwar era.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	300,000	90,000	390,000
2011 年度	300,000	90,000	390,000
2012 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
総 計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：

科研費の分科・細目：英語・英語圏文学

キーワード：米文学・占領・民主化政策・GHQ・翻訳・戦後・日米文化

1. 研究開始当初の背景

本研究は、既に多くの研究が成される戦後

日本占領政策の中でも未だ未解明の点が多いGHQ民主化政策とアメリカ文学との関

連に着目したものである。GHQが占領下日本でアメリカ図書の翻訳・出版・読書奨励を実施するに当たり、どのような政治的・文化的背景があったのか、そしてアメリカ図書を日本人読者がどう受け入れ、その受容と解釈が日本人の戦後民主化理解・アメリカ理解にどのように影響したのかを追求しようというのが初動機であった。

2. 研究の目的

本研究は、GHQが占領下日本の民主化政策として用いたアメリカ文学作品の翻訳・出版状況を精査し、文学が占領という政治的枠組みにおいてどのような意味と役割を持ち得たのかを追求した。文学を用いた民主化政策に占領軍がどのような戦略的意図を込めたのか、日本人読者はアメリカ文学をどのように受容し、その受容には彼等日本人のどのような文化的視点が働いたのかを調査し、戦後日本占領という特殊な政治的枠組みにおいて、文学に込められた意味が日米両国の空間的・文化的国境を越えて変容、再生、再構築される軌跡を辿ることを目的とした。

3. 研究の方法

当研究は次のような研究方法を採用した。

(1) GHQ日本民主化政策における文学・図書の位置づけを知る為に、国立国会図書館憲政資料室に主として所蔵されるGHQ機密文書他GHQ発行資料を精査し、翻訳図書政策の概要を把握する。

(2) GHQの一組織CIEが実施した外国図書翻訳政策に着目し、CIEが占領下日本に普及・翻訳奨励を行った図書の実体を把握する。その方法には、CIEが発行した*CIE Bulletin*といった機関会報、報告書等の一次資料を精査する。加えてGHQの他機関で図書政策に関わった米国教育使節団や国務省、戦時情報局等の図書政策方針についても同様の調査を行う。主たる資料は、米国教育使節団がGHQに提出した報告書、および国務省管轄で行われた海外普及用図書選抜に関する他研究者の研究を参照した。

(3) (2)までに収集した資料を基に、民主化政策でどのような文学・図書が占領下日本に読書奨励されたのか、全体像を把握する。

(4) (1～3)で実施した事実調査を基に、民主化政策の一環としての文学・図書の位置付け・文脈の意味を考察し、最終的な分析結果を出す。選抜された図書はどのような理由で選抜され、どのような効果をもたらしたのかを考察する。

4. 研究成果

当研究成果として、次のような成果が得られた：

(1) 占領下日本にGHQを始めとする占領関係組織が翻訳・読書奨励を行った文学・図書には、幾つかの傾向があることが明らかに

なった—①アメリカの歴史を理解させるのに有用と思われる作品、②アメリカの多文化社会を前景化する作品、③アメリカの偉人たちの伝記や自叙伝、④西部開拓時代を描いた作品。

(2) (1)のGHQを始めとする占領関係組織が実施した図書政策の実態から、アメリカが図書を通して占領下日本に普及・移植させようとしたアメリカのイメージ、アメリカ式民主主義像が明らかになった。その理想的国家像とは、主として①自由と独立の精神を重んじる個人主義社会としての民主主義、②異文化や他人種に対する寛容性を持ち、文化的・人種的他者に寛容な、ヘゲモニー性及び帝国主義的要素を覆い隠した国家像、である。

逆に、国内の社会問題や人種差別を想起させるもの、あからさまな共産主義批判、占領軍や日本人に対する否定的表現が成された作品等は避けられる傾向にあった。

(3) (2)に述べたアメリカの理想的国家像の普及の為に選抜されたアメリカ図書には、西部開拓時代を扱った文学・図書・映画が特徴的位置を占めていることを発見した。GHQや国務省等の翻訳推薦図書には、共通して西部を題材とした作品—筆者は西部文学と呼ぶ—が含まれているのである。更に、連合国最高司令官ダグラス・マッカーサーを始め、占領関係者の多くが西部のイメージを「アメリカ民主主義の理想的姿」として活用したことが判明した。このことから、アメリカが日本に理想的国家像を教示するにあたり、西部というアメリカの歴史的記憶と地政学的言説が翻訳図書選抜に作用していたことが分かった。

この西部文学から創造されるアメリカ像とは、自由と独立を重んじ困難に立ち向かう西部開拓者(パイオニア)の姿を想起させる、ヒロイック且つノスタルジックなアメリカ人像である。歴史家フレデリック・ジャクソン・ターナーは西部フロンティアをアメリカの民主主義の原点とする理論を展開したが、西部文学が表象するアメリカ像とは、ターナー理論に合致する、崇高な開拓者精神に裏打ちされた、アメリカの原風景としての西部像である。

(4) (3)のアメリカが日本に移植させようとした、西部開拓者が体現化する理想的アメリカ像は、当時アメリカ自身が構築しようとした国家の自己像でもあった。翻訳許可図書として選抜されたアメリカ文学作品は、必ずしも文学的価値の高いキャンノン作品ではないことが分かった。むしろ、占領当局の理念と政府の占領政策方針に合致する作品が選ばれたのだ。この意味において、翻訳図書選抜のプロセスは、戦後アメリカの国家的イメージ、戦後のナショナルな主体形成過程そのものである。日本に図書を通して理想

的「アメリカらしさ」の提供を試みながら、アメリカは同時に眼差しを自らの内にも向けていたのである。

(5) 当研究は、研究開始当初は1952年までの占領期のみを研究の射程としていたが、四年間の研究の結果、最終的に冷戦というより広大な枠組みに射程が拡大する成果を得た。GHQの図書政策がより広くアメリカの冷戦プロパガンダ政策と不可分な関係にあったことが判明したのだ。すなわち、GHQが実施した日本の図書を巡る民主化政策は、日本占領という一時的な狭義の枠組みではなく、冷戦による対ソ連対策としての巨大なプロパガンダ政策の一部であり、アメリカ政府が構築・普及を試みた理想的国家像とは、ソ連を対照化することで現出する自己イメージであったことが明らかになった。

冷戦の枠組みに射程が拡大した結果は次の(6)の内容に大きく影響する。

(6) 本研究はアメリカの図書政策の受け手側である日本人読者の解釈と受容の在り方をも詳細に調査を行った。その結果、次の様な結果が得られた—①日本人読者の多くは、占領軍が期待した、アメリカを理想的に受容する受動的解釈を行った。この背景には、戦後日本のアメリカに対する羨望と憧憬の心理が働いている、②①の受動的受容と同時に、興味深いことに日本人読者は日本人独自の文化的視野により作品の意味解釈を変容させていた。すなわち、多くの読者が西部を題材とした翻訳図書に、自らの戦後経験を重ね合わせ、「自分達の経験」として共感するという感情を抱いたのだ。この時アメリカ独自の歴史的記憶であるパイオニア達の開拓者精神は、日本人の文化的視野により「忍耐・勤勉」の「頑張り」の物語と日本文化的に解釈が行われる。これはいわば日本人読者によるアメリカの伝統的思考の「土着化」である。アメリカに羨望と憧憬の念をアメリカに抱きながら、同時にアメリカの経験を「我が経験」として共感し、自らに取り入れる独自の解釈があったのである。

この日本人読者のアメリカに対する羨望・憧憬と身近な共感を寄せるという重層的視点は、冷戦の枠組みから考察すると興味深い点が浮かび上がる。冷戦期アメリカは対ソ連イデオロギー政策として、帝国主義とは対照的な、アジアとの相互関係を重視するアメリカ、という平和主義的国家イメージ、換言すればアジアを自己に取り込もうとする戦後の新たな外交政策を展開した。文化的・人種的他者であるアジアを自ら「友」と銘打ち内に取り込む戦略でソ連との対照化を図ったのである。

この政治的状況に照らし合わせると、戦後日本人読者がアメリカの翻訳図書、とりわけ西部文学に身近な共感を感じたことは注目に

値する。なぜなら、アメリカを羨望の対象としながら同時に「土着化」させる日本人読者の解釈は、アメリカの「平和主義的」冷戦政策の大枠に沿ったものであるからだ。アメリカの優勢性を進んで受け入れながら、同時にアメリカの傘下に自ら入りその中で伝統的の日本を肯定し、延いては占領前の日本回帰に眼差しを向ける日本の重層的視点が現れる。ここに冷戦下日本とアメリカの占領を巡る絶対的権力関係と同時に、新たに出現する戦略的友好関係、すなわちアメリカを主体とした冷戦体制を共に構築し合う両国の相互依存関係が見えてくるのだ。

GHQ占領政策として図書政策を見た場合にはアメリカ→日本という一方向的な権力の方向性だけが顕著に現れがちであったが、冷戦という拡大した枠組みに視点を広げることにより、戦後日米関係および日本人意識のより複雑な関係性が見える結果となった。

(7) 戦後GHQによる翻訳図書政策は、単に戦後占領期に留まらず、上記に述べたような日米両国が共に形成した冷戦体制形成のプロセスであったことが明らかになった。図書は単にアメリカのイデオロギーを日本に移植する手段ではなく、占領と冷戦という特殊な文脈によって政治的意味を与えられ、日米それぞれが自国の有利なアイデンティティを模索する闘争の場となったことが判明した。

政治政策・外交政策に焦点が当てられる傾向にあった占領研究に、文学という新たな文化的要素を取り込むことにより、占領のみならず冷戦期イデオロギー形成に文学がいかに重要な政治的役割を担ったかが明らかとなり、戦後研究に新たな展望が拓かれた。

今後は、漫画や映画などの他のメディアと占領・冷戦プロパガンダ政策の関係性に着目していく。また、対日アメリカ占領政策のみならず、ドイツに対する図書政策についても研究の幅を拡大し、日独の比較を行う予定である。こうした取り組みにより、戦後日本の民主化・アメリカ観・国家的主体形成の在り方のより詳細な全体像が明らかになることが期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

①鈴木紀子、「西部フロンティアと日本—戦後日本における西部言説の「土着化」と日本の自己再生をめぐる文化政治学—」、『大妻女子大学紀要文系』、査読無、Vol. 45、2013、61-71

http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AN10272489_ja.html

②鈴木紀子、「思想教育と文学の政治学—GHQ/SCAP の日本民主化政策とアメリカ西部フロンティア言説の関係性—」、『論叢 現代語・現代文化』、査読有、Vol. 4、2010、157-181

〔学会発表〕(計2件)

①鈴木紀子、「冷戦期の「文学大使」たち—戦後日本のナショナル・アイデンティティ形成における米文学の機能と文化的受容」、アメリカ学会第47回年次大会、2013年6月1日～6月2日、東京外国語大学、査読有

②Noriko Suzuki, “The American Frontier and Japanese Democratization: American Western Literature in the Japanese Occupation Program by GHQ/SCAP in Postwar Japan”, The 8th Annual Conference of Hawaii International Conference on Arts and Humanities, January 13-16, 2010

〔図書〕(計1件)

①村上東、鈴木紀子他、臨川書店、『冷戦とアメリカン・カルチャー—覇権国家の文化装置—』、2013年出版予定、共著

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 紀子 (SUZUKI NORIKO)

研究者番号：40522123

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：